

令和4年度学校関係者評価

R5.3.27

		段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった) ※学校全体できているかを評価(教員31名実施)										学校評議員の意見	
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答				令和4年度の振り返り(成果・課題)・令和5年度に向けての改善策	
								4	3	2	1		
学校運営全般	開かれた学校づくり	校務分掌における取組み	1	各分掌の重点目標を設定し、取組みについて評価・見直しを行う。	3.06	3.16	-0.10	3	27	1	0	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな指導の場面において、教員が連携し、適切な対応ができた。各学年・部署との情報共有の方法についてはさらに改善していきたい。(教務) 学習指導、進路指導において、きめ細かい、個に応じた指導ができた。(進路指導) 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の学校内部評価は、現在の状況では妥当である。生徒のいきいきとした学習状況が確認できた。 教科指導・部活動指導以外にも多くの教育活動がなされている。 様々な指導場面において、教員が連携し適切な対応ができたことは特筆すべき。この連携、共有の姿勢は新たな発展につながる。
		家庭地域との連携・情報発信	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.19	3.45	-0.26	7	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や行事等の情報を提供する目的として、また保護者や地域へ発信するツールとして時代のニーズに沿ったインスタグラムを立ち上げた。(総務) ホームページやインスタグラムを周知してもらうために、内容を充実させ、興味を持ってもらうことが必要である。(総務) 学年懇談会を新型コロナウイルス対策として、2グループに分けて実施した。また、夏季の三者面談に加え、必要に応じて個別の面談を行った。(1年) 新型コロナ対策として学年懇談会をα類型、β類型及びコースの2グループに分けて実施し、類型の特色に応じた話をする事で進路意識を高めることができた。(2年) 学年と専門部が連携をし、特に生徒指導、進路指導部と緊密に連絡を取り合い、生徒の指導を個別に行うことができた。(3年) インスタグラムの開設は良いことである。これまで以上に学校生活の情報を発信できた。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラム開設は、最近の保護者の方々にも受け入れられやすく、情報発信のツールとして有効である。タイムラグが少ない情報は保護者の安心にもつながる。 コロナ禍で制限のある中、前年度より様々な行事が行えている。この3年間で経験した感染予防に関するスキルを生かしてほしい。 地域に発信するには積極的にメディアを活用することがよい。職員、生徒、保護者、地域ともメディアに出ることで盛り上がり、次への意欲につながる。
		地域貢献	3	観摩会、ふれあいコンサート、音楽における中高連携、ボランティア活動等の活動において地域に親しまれる学校づくりを行う。	2.87	2.81	0.06	4	20	6	1	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も観摩会は中止。たそがれコンサートは、参加できない生徒が数名出たものの、入場制限を行いながらも実施することができた。募金活動には生徒ボランティアが参加するなど、生徒と教員はよく連携できていた。(総務) コロナ禍の制約がありつつも、たそがれコンサートや募金活動など、可能な範囲で活動を実施することができた。(生徒会、吹奏楽部、ギター・マンドリン部) 1学期に、生徒会が2度の街頭募金を行った。1回目は新型コロナウイルスに対応されている医療従事者の方への支援として募金を募り、順心淡路病院へ車椅子を寄贈した。2回目は赤十字への募金を募り、淡路市へ委託した。2学期には、3年ぶりに開催されたいざなぎの元気っ子フェスティバルに、生徒会がボランティアとして参加した。来年度も生徒会を中心に募金やボランティア活動に取り組みたいが、その他の生徒から自発的な参加が増えるよう、生徒への啓発も進める必要がある。(生徒指導) 生徒会の中心メンバーとして積極的に活動することができた。(2年) 観摩会が3年連続で中止となり、行事の継続が危ぶまれる。また、藤棚の整備が難しいことも、お茶会の開催を困難にしている。開催は難しい状況であるが、来年度はお点前のデモンストレーションなど工夫して行いたい。(茶道部) コロナ禍で制限がある中でよくできていた。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> コンサートや音楽活動も招待するだけでなく、街中や福祉施設、小中学校等に出向いてみるのもよい。 ホームページやインスタグラムの充実により家庭・地域との連携が深まり家庭と学校のつながりが充実する。 学年懇談会も工夫して開催できたことは、保護者の意識を高めることに役立っている。 生徒の指導を個別に行うことは大事である。さらにきめ細かい指導を工夫してほしい。 募金活動や清掃活動等の地域への働きかけも学習活動の延長にあり、発展でもある。高校生の活動に地域の人たちが関心を持つことは教育力向上につながってゆく。 ホームページで行事予定や食堂営業日が分かるのは良い。インスタグラムもタイムリーな投稿が楽しみである。
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを進展させ自立の意識を高める。	2.84	2.87	-0.03	1	25	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭や体育祭が少しずつコロナ以前に戻ってきており、生徒会の活動も増えてきた。その中で、体育祭での障害物競走の中身を生徒会で提案したりするなど、生徒会の主体的な取り組みが見られるようになってきた。その一方で、行事全体の運営など、さらに生徒会が自主的に活動できるような環境づくりと意識づけが必要であると思われる。(生徒指導) 企画委員としてオープンハイスクールや文化祭など学校行事の際に意欲的に活動する姿勢が見られた。(1年) 体育祭では、生徒たちが学年演技や他の競技に熱心に自ら取り組む姿勢が見られた。(3年) 	
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。いじめの積極的認知に努め、組織的に対応する。	3.03	3.06	-0.03	5	22	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 今年度2学期から携帯・スマホの使用を校内で認めるように校則を変更した。今のところ、授業中の使用や校内での使用に伴う大きなトラブルは起こっていないが、歩きスマホや教室内で音声がでるような使い方など、マナー面や活用方法での問題が散見されるようになってきている。学校という場が公共の場であることを自覚させるとともに、携帯・スマホの利用に際しても、適切なマナーを守れるように啓発し指導していく必要がある。(生徒指導) 通学、学校周辺での問題としては、コミュニティバス内での優先座席のあり方や、近隣店舗での利用客の迷惑になっていることなどがあつた。このような点についても、公共の場での探るべき行動を指導していく必要がある。(生徒指導) 友人関係の中や、部活動の中で適切なコミュニケーションがとれず、いじめに発展するケースがあつた。引き続き、相手の立場に立つて物事を考え、気持ちを推し量れるように指導していく。(生徒指導) BYODの導入に当たり、スマホの使用に関する校則が変更されたが、どこまで指導すべきか判断に迷う場面があり、学年・生徒指導部を中心に改めてガイドラインを協議する必要があると考える。また、スマホやSNSのマナーについてはトラブルを未然に防ぐ意味でも、継続的に意識向上を促す必要があると考える。(1年) SNSへの安易な書き込みなどでトラブルになりかけるケースも見られた。生徒のマナー・ルール遵守の意識を高める指導を継続して行いたい。(2年) 大きなルール違反をする生徒はほとんどいなかったが、目先の面白さに負けてマナー違反を犯す生徒がおり、こまめに声掛けをするなど指導した。卒業後に目を向け、社会のルールやマナーなどに意識を向けるよう、継続的に指導していく必要があると感じている。(3年) 女子の服装の乱れや化粧がとても気になった。歩きスマホやツーブロックの髪型など、校則として明文化されていない部分でどの程度まで指導するか判断するのが難しい。曖昧な部分をはっきりさせていく必要がある。(個人) 教員から改善を提案ではなく、生徒会などを中心に生徒からの訴えをもとに校則を見直す、という形にすることはできないか。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> スマートホン(携帯電話)の怖さを教える必要がある。警察関係・携帯電話会社等と連携して、犯罪の実態等を徹底的に教えていくのがよい。特に被害者とならないように。 自主性と独自性と育むためには、生徒の主体的な取組が大事である。 生徒との対話により意欲が充実することを期待する。 教員も生徒も校則に対する学習をすることで新しいきずきも生まれ、見直す姿勢ができる。 カウンセリングマインドについて具体的に研修する事が必要である。
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもって生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的な理解をはかる。	3.13	3.23	-0.10	5	25	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会を週1回開き、生徒の情報交換を行った。配慮やケアが必要な生徒が増えてきているが、学年等と連携して個別に対応することができた。カウンセリングマインド職員研修会を開催し、意識の高揚をはかることができたと思う。キャンパスカウンセラーの先生には月2〜3度カウンセリングを行ってもらっているが、更なるケアをするためには人手や時間が不足しているように思われる。(保健・教育相談) 	
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.19	3.42	-0.23	8	21	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 学年、教科と連携し、面接指導、小論文指導、ガイダンスなどの進路指導を行うことができた。(進路指導) 進路指導部と連携を図りながら進路学習を実施するなど、進路意識を高める取り組みができた。(1年) 夏季休業中には就職希望者が企業や官庁へのインターンシップに参加し、進学希望者はオープンキャンパスへの参加やオンライン講義の視聴など、積極的に自らの進路実現に取り組む活動ができた。(2年) 進路指導部と緊密に連携して、進学・就職に向けての準備をすすめることができた。特に、面談や面接練習、小論文指導など細部にわたり実施することができた。(3年) もう少し密に連携がとれるとよかつたが、他の業務もありなかなかその余裕がなかつた。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた様々な指導をきめ細かに実践し積み重ねてほしい。 進路意識向上のための工夫を重ねて意欲を高め、生徒の取組を前進させてほしい。 四者面談は子どものやりたいことができる学校が見つかり選択肢が広がる。 担任の先生や進路指導の先生からの勉強方法のアドバイスはありがたい。
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.23	3.16	0.06	8	22	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 効果的に進路学習やガイダンスを行い進路実現の意欲を高めた。(進路指導) 	
	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	3.00	2.87	0.13	4	23	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 1年生のBYOD導入に伴い、ICTを取り入れた指導も増えてきている。それを主題にした研究授業も数回行われていた。しかし、まだまだ全職員での共有には不十分であり、情報共有する場を設定していきたい(特色化)。 BYODが導入され、ICT機器を活用した授業展開や遠隔授業等、今後さらに研修を重ねられる体制を構築する必要があると考える。(教育工学) タブレットやICT機器の活用について研修等を充実させて情報共有をしていく必要がある。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> Society5.0を見据えた教育や指導の実践には、指導者の理解とスキル向上が必要不可欠になる。 今の生徒は小学校時代からタブレットを駆使して学習しており、小中学校で「思考をまとめる、伝え合う、話し合う、プレゼンする」というようなことをしてきているので、それをベースに発展させた学びを期待する。 ICT機器の活用のための研修機会や予算面を充実させてほしい。

		段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった) ※学校全体できているかを評価(教員31名実施)										学校評議員の意見	
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答					令和4年度の振り返り(成果・課題)・令和5年度に向けての改善策
								4	3	2	1		
教育課程	自ら学び考える力を育成する取組	読書啓発	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	2.97	3.19	-0.23	3	24	4	0	・空調設備の故障により、とくに7～9月の暑い時期にかけて、館内での読書や学習することが非常に厳しく、利用する場合は扇風機や水分補給の徹底を強化し、暑さ対策を心掛けた。(図書) ・2学期後半には図書館の環境整備も整ったので、生徒が気持ちよく読書や学習に取り組み、さらに興味や関心を高めるような図書館づくりを目指す。(図書) ・本を持ってきていない生徒もいた。(個人)	・授業中新聞を読むことを勧めた学習展開がありましたが「朝の読書」でも書籍だけでなく新聞を読むことを勧め現在の社会状況を知る一助にしてははどうでしょう。 ・Reborn Project はとても興味深い取り組みであると感じます。高校生のプランが実際の地域を変えていくことを望んでいます。・自ら学び考える力を育成する取組釈迦に説法ですが、タブレットを使うことで生徒が自主的・主体的な学習になるのではないし、教員がタブレットを上手に使えば授業がよくなっているのではないということも抑えておくことです。ICTはあくまでも手段であって目的ではないということです。授業力は別のところで付けていかなければなりません。 ・リボンプロ(課題研究もそうか?)の趣旨からすると、地域(商店街や農産物)に足を運び、地元の人を巻き込んだ取組が必要ではないでしょうか。すでにやっているかもしれませんが、例えば、「何が違うの、西浦と西海岸」「志筑商店街が生きる道」「高校生がめざしたい淡路の農業漁業」「地元が輝く淡路市観光スポット」「ウエルカム大阪万博IN淡路」「消防団は本当に必要か」みたいなテーマで地域の人に関わっていき、その人たちに報告もするというようなものです。そのことが地元を元気にし、変えていくきっかけになれば素晴らしいと思います。 ・空調設備の整備は不可欠なので点検を常に行ってください。 ・グループでの学び、個別の取り組みの中で主体性をいかに育てるかが課題となる。
		総合的な探究の時間	11	総合的な探究の時間を通じて、自ら学び考える力や、探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.10	3.26	-0.16	6	22	3	0	・総合的な探究の時間においては、生徒自身が設定したテーマに応じ、主体的な探究活動がみられた。新課程の「理数探究基礎」「理数探究」(1・2年総合科学コース)の内容については、今後も学年・教科で協議し、改善に努めていきたい。(教務) ・今年度より1学年から総合的な探究の時間が始まり、学年と共に授業プランを計画していった。来年度以降、今年度のモデルがどこまで活用されるかわからないが、3年間通した総合的な探究の時間に対する学校として意図・目標を今一度職員間で共有する必要がある。Reborn Projectや理科の課題研究は、受験の際、探究活動として必要不可欠なものになっているので、さらに深化させる必要がある。(進路指導) ・講演会の実施やグループワークの活動などを通してキャリア教育の充実を図り、来年度の総合的な探究の時間への動機付けを行うことができた。(1年) ・Reborn Project、課題研究、英語プレゼンテーションに取り組むことで、主体的に学び、課題を見つけ探究する姿勢を養うことができた。(2年) ・2年時に行ったReborn Projectや理科の課題研究は、受験の際に、探究活動を行ったアピールポイントとして、必要不可欠なものであると再確認できた。(3年) ・準備が特定の人に集中してしまうことがあり、しっかりと準備できなかった。(個人)	
		体験的・問題解決学習	12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	3.03	2.87	0.16	4	24	3	0	・文系のRebornProject、理系の課題研究で自ら課題を設定し、活動に取り組むことができた。各教科担当で工夫して、BYODや学習用端末を利用した生徒主体の学習活動がみられた。(教務) ・各教科での取り組みが行われているとは思いますが、それを共有し活用したり、教科横断的に取り組んでいく取り組みがさらに求められる(特色化)。 ・調べ学習や班による発表にタブレットを活用できた。(個人)	
		適切なカリキュラムの作成	13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	2.94	2.97	-0.03	2	25	4	0	・適切なカリキュラム編成を行うことができた。今後の学科再編にむけて、特色にあったカリキュラム編成が求められるため、学科の方向性も含めてさらに協議を重ねていきたい。(教務) ・3学年では、選択教科を多く設定し、進路に合わせて学習できる環境を用意するようにしているが、学校規模が小さくなり教員の数が不足するため、多様性に欠けるようになってしまっている。(3年)	
	基礎・基本の定着	授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	2.94	2.87	0.06	2	26	2	1	・各教科担当で授業計画を作成することで、授業で取り扱う内容を見直すことができ、効果的な授業展開に繋がった。授業計画作成時には、評価規準もあわせて示し、観点別評価に対応する必要がある。(教務)	
		指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	2.97	3.00	-0.03	3	24	4	0	・類型選択と連動した少人数指導を検討し、生徒個々の能力に応じたきめ細かな授業をより一層目指す必要がある。(教務)	
		家庭学習の習慣付け	16	自発的に課題・予習・復習など家庭学習を行う習慣を付ける指導をする。	3.00	2.87	0.13	5	21	5	0	・知識・理解だけを求める授業ではなく、主体的に考える授業の機会をさらに増やしていく。(特色化) ・1学期は「今未来手帳」を有効活用して学習計画と振り返りの習慣づけを指導したが、2学期以降はタブレットを活用するようになった。手帳を活用して指導するのか、タブレットを活用して指導するのか方向性を協議する必要があると考える。(1年) ・進路実現に向け、積極的な学習の取り組みが見られたが、主体的な進路決定の意識を持ってない生徒もいた。また、進路が決定した生徒の学習への取り組みに課題が残った。(3年) ・Classroomを利用して家庭学習用のコンテンツを充実させ、自発的な学習に取り組むやすい環境を提供することができた。(個人) ・BYOD端末にGoogleドキュメントを用いてレポート等の課題を配信し、パフォーマンス課題として評価することができた。(個人)	・定期テスト・実力模試等の上位者を掲示し、モチベーションアップにつなげるのがよい。 ・進路実現に向けて毎日の学習の大切さを意識づけしてほしい。 ・オンライン学習への意識と生活設計の大事さを身につけてほしい。
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対応訓練を行う。	2.90	3.32	-0.42	1	26	4	0	・防災訓練において、火災報知器が故障しているなか、訓練に参加する教職員、防災ジュニアリーダー、生徒間で臨機応変に連携を取りながら、安全・安心な避難誘導ができた。防災ジュニアリーダーによる「マイ避難カード」を作成し、生徒へ配布することができた。今後もこれまでの「防災マニュアル」をもとにその時々状況に応じて改善していく必要がある。(総務防災)	・日々の防災意識が、実際の震災で試される。南海トラフ地震に向け、生徒一人ひとりに高い防災意識を持ってもらえる指導を願う。 ・防災教育・安全教育はリボンプロジェクトのテーマにもなりうる。自分たちができることを考え、住民に協力してもらって実際に訓練をやってみることは必ず役に立つ学びになる。 ・人命救助について、心肺蘇生とAEDの操作の生徒研修会を年数回実施することを望む。 ・安全な教育環境を維持するための取組を実践する。
		人権教育の推進	人権教育推進体制への取組み	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.10	3.10	0.00	6	22	3	0	・人権啓発映画の観賞会を実施し、人権の観点から感想文を書いたり、夏季課題として人権標語の作成に取り組んだりして、様々な人権課題についての意識づけを行った。今年度からBYODの取り組みが始まり、校内のスマホの使用ができるようになったことから、正しい人権意識や人権感覚を育む機会を大切にしたい。特に1年生については早期よりネット関係の人権侵害防止対策を行った。人権ホームルームを通じて、ジェンダーについて考えたり、合理的配慮について学んだりする機会を設けられた。(人権)
	設備・機器の利用	図書館・情報機器の活用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.19	3.10	0.10	9	19	3	0	・生徒用タブレットを教室棟から図書館へ移動したことで授業での利便性が向上し、図書館を使用して授業や探求学習をする回数が増加した。(図書・個人) ・アクセスポイントの増設など、今以上にネットワーク環境の充実が求められる。急速なICT環境の整備に対して、利用できるコンテンツの整備が追いついていない。デジタル教材の整備を進めるとともに、授業での活用方法等の職員研修を充実させる必要がある。(教育工学・個人) ・Reborn Projectや課題研究において、図書館で調べ学習をしたり発表資料作りでタブレットを有効活用したりすることができた。(2年) ・修学旅行では、諸調査、諸連絡、レポートの提出など様々な場面においてスマホを中心としたICT機器を有効に活用することができた。(2年)	・ICT機器を充実させ、将来島内高校のセンター的役割を果たす必要がある。 ・ICT機器(BYOD含む)活用のための数年先を見据えた計画が必要である。
	学校特色化	高大連携・外部講師の活用	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上を目指した取り組みを行う。	2.94	3.19	-0.26	4	22	4	1	・インスパイアハイスクール事業やReborn Projectを通じて、大学教員や地域で活動される方をお招きした授業を実施することができた。これらの事業と他の教科が連携した授業の模索も、今後の新たな学びの可能性を探るうえで有用であると思われる。(特色化)	・さらなる特色化を追求してほしい。
全体					3.03	3.09	-0.06					・全ての教育活動を通じて、何を指して教育活動をしているのか明確に全職員に共通理解させる必要性を感じる。(個人)	・コロナ禍がもたらした社会変化は、教育現場にも様々な影響をもたらした。新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行した後も、まだまだ対応が必要になるので、引き続き生徒へ指導をお願いします。 ・オールラウンドに努力しているが、ICT等に特化した特色化も考えられる。